

ずらかへく急し如がく行を遠き遠てふ負を荷き重は生一の人

-569-

允 子 御 店

曾福新統盟長

此觀察は誤らず、然れども此覆面は敢て百濟の古都のみに非ず、全韓國に亘りて覆面しつゝあり、殊に京城に於て最も甚だしきなり。

史の正義 こくこころし

●支那人の不穩 探木公司に對し不平
に支店開業の目的を以て來京し家屋搜索中
なり近々來京の新米國資本家特派代表者ス
トレート氏の企業と相俟つて米人の活動相
見せらるゝ

観せるのみ道臺よりは鎮撫

謁見の上新任の挨拶を述べたるが韓皇より
は勅語を賜ひ終つて仁政殿東行閣に於て結
簪及隨員一同へ陪食仰付られ午後一時二十
五分退出歸路德壽宮へ伺候太皇帝へ謁見
上新任の挨拶と述べたる

十分韓皇に謁見の際韓皇

起は北滿州より、寬城子に至るまで悉く車
路は北滿州より、寬城子に至るまで悉く車
路は北滿州より、寬城子に至るまで悉く車

げたり

●**統監と道書記官**
統監トウガンは二十四日午前十一時各道書記官オノオノを西邸オウテに招き地方行政に關する一場の訓示オウシを行へ各道書記官の意見を徴すべしと因み

十三日参内の際韓皇韓皇

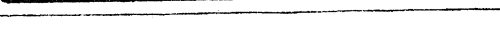
●觀察使會議決定
此官の歸任と共に來月初め内部大臣は觀
使會議を召集する事に決定したりと
●宇佐川總裁の出張

の上は直に會統

●皇室債務の訴訟

室債務の訴

より糸織部十餘臺の配付を受けたるが今



■**■** 屯土問題は目下度支部の

森村 太郎君

明治二十五年（一八九一）の秋君は弱冠にして青春燃ゆるが如き希望を抱ひて渡韓し明洞に質店を開き韓人を相手に業務に精勵して居た所で一般渡韓者の路は空しく置かれ

ふふべきである君

當つて毫も躊躇遂過する處がない、三十三年明治法律學校に入り業了へて更に日本大學に遊び高等師範科を卒業して後大阪天王寺中學に教鞭を執る内三十七八

並に一時則金二百

て居る。蓋し好個の事務家たるを失はぬ
君は又代書業組合長をも兼ねて居る
應度支部臨時財産整理局に於て殿陵に附
する財産其他を調査すべき筈なりしも種
の都合の爲め今日に至りたる次第なるが

経費は國庫より支

もの約二百名程ありと云ふ

●大田の三税反對

內工業傳習所及士

全國の戸數は二百三十三萬三千〇八十人、人口九百七十八萬、千六百七十一人に於ける警察署の開番に係るは光武十年に於けるのなり而して日本にては明治三十九年、直要國免證員三、四、四、百、十三、食、天、和、飯

八千八百十二人

稱を釜山軌道株式會社とし二十一日發
は理事廳を經て內務大臣へ呈願せりと
主事の稅國拜觀 新任郡主事約三十
二十三日午後一時より昌德宮內秘圖を
韓

十七日頃歸京すべし

長の統監府訪問 熊谷民長は廿三日
府を訪問し民團を代表して統監降任の
勅を述べかねて民團の催にかゝる統監迎
園遊會準備に付て協議する處ありたり

100

るが今韓國政府より三税を賦課するに
し二、
食を負擔する事となりたるを
民權代工業者、
反對、
同評議員内

たる後^{のち}は最早必^ず要^を

公人私入

(京鐵道警察部長) 二十二日入京

四郎(平壤鑛業所顧問) 同日入京

郎(同所長) 同日入京關上

中外通信社員) 同日入京原金

以上に集る請ふ英

す毫も假借せず處分せんと大怖し
韓沿岸視察にて日本人は拘束せざ
に發展すべきを知得たりとは眞乎
官憲の拘束なくんば十年以前に對
解決したらん曾孫子の觀察適切也

-570-

規と以て律するは

新羅高麗以上優等の人民たらんと
君何に感ずつてか類に韓人を讃め
罷も決して侮る人民に非ずと稱揚す
關する傳説も同一也日韓兩國の交

と神祖せしむるが

1

